

雪の上で探してみよう、 クモガタガガンボ

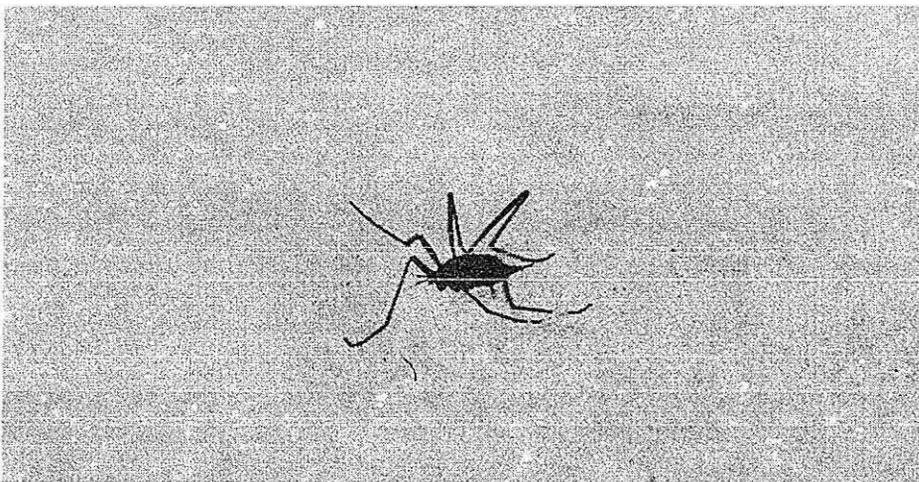
冬に雪の上で活動する虫については、以前、1987年2月号（107号）に、北越雪譜とユキユスリカの、1995年3月号（204号）にはセッケイカワゲラの紹介をしました。

今回は、それらと同様に雪上で活動するクモガタガガンボ（ニッポンユキガガンボとも言う）について紹介しましょう。

体の長さは5mm程度、色は薄茶色から褐色、はねは退化し、たいへん短くなっています。当然、空は飛ばず林の中や周辺の雪上を歩いています。

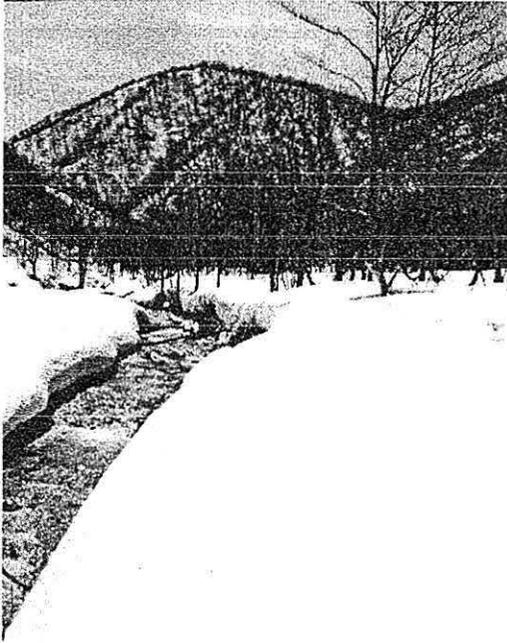
足が長く、歩いている姿はほとんどクモのようですが、足は6本で、ガガンボ科に属する昆虫でカやハエの仲間です。

標高500m程度の山地では12月から3月頃観察できますが、1月か2月の始めのころがよく見られるようです。立山のような高山にもいて、そこでは10月頃にも見られるようです。



クモガタガガンボの仲間のメス

（クモガタガガンボの仲間には、クモガタガガンボの他にも何種類かいることは分かっているが、まだ分類研究が不十分で、どんな種がどこにいるのか、何種いるのかなど分かっていない。）



クモガタガンボは、北海道の低山・亜高山から九州の山岳地まで広く分布していますが、この虫について分かっていることはたいへん少ないのです。

北海道での観察によると、雪上で活動できる温度はたいへん限られていて、気温 1°C ～氷点下 6°C 程度だそうです。氷点下 10°C にまで温度が下がると体が凍ってしまうようで、雪上で活動するにもかかわらず案外寒さには弱いらしいことが分かっています。

活動しにくくなるほど寒くなってくると、樹木と積雪の隙間から雪の下へもぐり込み隠れるのではないかと考えられています。

こんな所で探してみよう

また、滋賀県比良山での観察によると、夜間の活動が盛んで暖かい所に集まるらしいことが分かっています。

しかし、幼虫の生活は不明ですし、交尾や産卵の様子も不明です。生活の様子はほとんど何も分かっていないということです。

最近、輪かんじきやスノーシュー、歩くスキーで雪の野原や雪の森の中を散策する「スノートレック」が流行しています。天気が良ければ、歩くだけでも充分楽しいのですが、雪上を歩き回る虫探しも付け加えるともっと楽しくなるのではないのでしょうか。

(根来 尚)



富山市科学文化センター

〒939-8084 富山市西中野町1-8-31 (TEL. 076-491-2123)

<http://www.tsm.toyama.toyama.jp>

平成 17 年 1 月 1 日